

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100078
法人名	社会福祉法人 久栄会
事業所名	グループホーム さざんか園
所在地	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大曲3475-1 (電話) 0952-53-2879

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 20年12月16日	評価確定日	平成 21年2月12日

【情報提供票より】(平成20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋、平屋、耐火構造 造り		
	1 階建ての		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	14,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥前精神医療センター、西谷クリニック、松本医院、塚本歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな道路から少し入ったところにある、グループホーム専用の建物である。屋外から玄関まではスロープがあり、車椅子で移動ができるよう整備されている。玄関には施設の理念が掲げられており、スタッフ全員が日常の中で把握できるようにされている。室内は十分なスペースが確保され、中庭のおかげで、日の光が十分取り入れられる構造である。トイレは車椅子でも使いやすいように設計されており、生活がしやすいように配慮されている。広いベランダもあり天気の良い日は入居されている方々で日向ぼっこなどをされている。また、スタッフも入居者に溶け込むように自然に仕事をされており、和やかな雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を含め、前回評価の内容を会議にて討議し合い、理解して業務の具体的な改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各スタッフに項目を振り分け、評価してもらい、それを持ち寄って再度話し合い、自己評価に取り組まれている。自己評価を皆で行うことにより地域密着の意義や、介護に関する考え方が変わったりと、スタッフにとってプラスに作用している。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議により、家族、地域住民、市町村職員など様々な関係者からの意見を聞くことができ、サービスの改善につなげられている。また、ホームの様子を説明し、ビデオなどの活用により実際の現場を見てもらうことにより、外部からの見方を変えることができ、より地域に密着できるようになっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>普段の面会時に積極的にコミュニケーションをとることにより、ちょっとした不満や要望、気づきなどを把握しサービスの改善につなげられている。また、その内容に応じて、さりげなく改善されるものや、きちんと改善報告されるものを分別することにより、より家族が意見を言いやすくなるように配慮されている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員全員が近所の散歩の時など、積極的に挨拶をし、話しかけることで地域とのつながりをつくろうと努められている。また、地区のクリーン作戦などに参加し、地域とお互い支えあう存在となっている。ホームの行事に地区が招待されたり、ホームが場所の提供をし、地区の行事が行われたり、地域との交流が盛んに行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で作り上げた「老いても、障害を持っても当たり前に分らなく普通に暮らしたい」という事業所独自の理念があり、管理者自身も、地域の中の地域による地域のための施設作りをしたいという、しっかりとした理念を持たれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に、事務所に掲げられている理念を唱和し、職員全体で共有できるようにしている。また、新人職員には理念の説明・確認を行っており、理念が浸透するように努められている。理念の実践として、地域の行事への積極的な参加や日々の散歩での挨拶の実施など、地域の中に馴染んでいけるよう心がけられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員全員が地域の方々との散歩での挨拶や接触に心がけている。また、地域の清掃活動への参加や、子どもクラブとの交流、施設でのお祭りや各種行事への参加を呼びかけたりと、積極的に地域と関わりが持たれている。清掃活動などでは、疲れた入居者に地域の方が気を使って下さるなど、相互の支え合いも見られる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う際は職員で手分けして評価を行い、それを持ち寄り会議などで再度検討することで、職員一人一人に施設が目指すところが見えてきて、介護に積極的になったり、地域に密着する意義が見出せたりしたことが活用につながっている。また、評価結果についても具体的な業務改善につなげるよう取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回会議を実施し、ビデオや資料を活用し、施設の様子を知ってもらう場として活用されている。そのおかげで、施設の外からの見方が変わることもあり、より地域に溶け込むことができています。また、そこで出た意見も職員会議で共有することにより、サービスの改善・向上につながられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、町主催の介護者教室に講師として積極的に出張して、介護の理解と実践に努められている。また、介護者教室の準備段階から町と協同することにより、関わりを持たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は入居者皆の写真を載せた園だよりを送付している。また、金銭管理については出納簿と領収書を送付している。入居者の状況に変化があった場合には、すぐに家族に連絡し、家族の意見を支援に反映させている。そのほか、家族会などではビデオを見てもらうことにより、入居者の状況を家族に知ってもらうよう努められている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は少なくとも月に一度は面会に来られており、その際には意見が言いやすい雰囲気つくりのために、職員は積極的に話しかけている。意見があった際は、職員間の伝達ノートや会議で共有しサービスの改善に取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	いくつかある法人内の各事業所の職員が、普段から行き来することにより、職員が離職した際にも利用者が顔なじみの別事業所の職員を補充することで、利用者へのダメージを少なくするように工夫されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤職員関係なく、組織を支える重要な人員と理解されており、研修には偏りがないように参加できるよう配慮されている。その報告も月に一度の勉強会でなされており、全職員へ伝達されている。また、新人職員への社内研修は、内容に応じてベテラン職員が実施することにより、研修をする側の自己研鑽の機会にもなっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	面識のある他グループホームと合同で研修を行ったり、見学に行ったりしている。また、全国GH協議会の佐賀県支部に所属しており、研修会に参加したり、他地区の同業者の状況を知ったりしてサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人のデイサービスや、小規模多機能の利用者の入居が多く、グループホーム入居前に法人内で行き来を多くし、関わりを持つことで、スタッフや利用者の方と馴染んでもらうよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の個々の残存機能や過去の生活歴を活かしながら、炊事、洗濯、畑作りなど各人が自分の役割を持って生活されている。その中で、職員が入居者に教えられることもある。また、入居者と若い職員の間、年配の職員が入り話題提供などしながらコミュニケーションを助け、共に生活することに心がけられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自らの意向を表現できない入居者については、家族から過去の生活ぶりや好みを聞くなどして、個別の対応ができるように努められている。また、一日一日の希望については朝の10時のお茶の時間に、当日の希望など聞きその日の活動に反映するようにされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人・家族の要望を普段の生活や、面会時に汲み取り、会議での職員の討議を経て、入居者本位の計画作成に努められている。結果は家族に報告され、同意を得た上で実施されている。	○	今後は計画検討の会議に家族の出席も求め、家族を含めて検討されることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画を長期で6ヶ月、短期で3ヶ月に区切り、見直しが行われている。入居者に変化があった場合はその都度見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人ひとりの入居者の状況、要望に合わせ、入浴をデイサービスの広い浴槽で行ったり、食事は個人の状態に合わせた形態にしたり、家事の手伝いにより生きがいを持ってもらうなどの支援を行っている。また、個々の通院も可能な限り対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関にかかりつけ医として協力を得、受診の際には、状況に応じて職員の付き添い、家族の同行、家族に依頼するなどして対応している。入居前のかかりつけ医がある場合には、本人、家族に説明と同意を得て変更するようにされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際や、看取りについての指針があり、管理者、医療機関、家族が早い段階で終末期について話し合い、今後の方針を決めている。また、スタッフ全員が終末期について勉強し、話し合いの場を持ち、方針の共有に努められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各職員が入居者の誇りや、プライバシーを損ねないように言葉かけや対応に注意しながら仕事をしている。また、接遇に関する研修を毎年受け実践している。個人情報については、事務所に一括保管しており、ケース記録の記入などについても事務所内でしか行わないようにし、持ち出さないように決められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や、一日のリズムを崩さないための最低限の基本的な時間は守ってもらうよう支援しているが、その中でもできるだけ個人個人のペースを大切にしたいと考えられている。1日の過ごし方については10時のお茶の時間に、日程の説明をするとともに、入居者の希望を聞いたりしながら決められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材には、家族から頂いたものや、旬の素材を使いながら入居者の希望を取り入れメニューを決め、準備や片付けなどを手伝ってもらいながら、職員とのコミュニケーションの場面としても活用され、入居者にとって楽しみな時間となるように配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間等、特に希望のない場合は午後の時間に入浴してもらっているが、希望がある場合には、本人のタイミングで入浴を支援したり、広い浴槽が好みの場合にはデイサービスの浴槽を使うなどして個人のペースや好みに合わせて入浴の支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフの仕事を見て、自ら手伝われる方もおられ、そのような方には役割として、炊事、掃除、洗濯、買い物、畑仕事、草取りなど手伝ってもらっており、本人の生活の張りにつながっている。また、意思表示のできない方については、日頃の散歩などで気晴らしの支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、隣接しているデイサービスや小規模多機能へ行き、音楽リハビリやカラオケなどに参加して頂いたり、日々の買い物やドライブなど可能な限り、個人の意向に沿った支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中のかぎかけは行われておらず、自室やベランダへ自由に出入りができるようにしている。また、屋外やデイサービスなどに出て行かれた際は、否定したり阻止しないよう、付き添いにて声かけを行いながら散歩を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回避難・消防訓練を消防署のもと行うよう計画・実施され、様々な指導を受けている。また、記録に残し、後の避難に活用できるようになされている。	○	今後は、特に夜間の避難の安全性確保のため、地元の消防団を含め、地域の方々の協力依頼や訓練への参加が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を記録し、それを見て栄養の偏りやメニューの重複がないように配慮されている。細かい栄養管理では必要に応じて、併設のデイサービスに勤務する栄養士にアドバイスをもらうこともある。水分補給は定刻に行っており、十分な水分摂取ができるようになっている。また、個人の状況や必要度に応じて、細かい記録をとり、水分摂取量を把握する場合もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔保持がきちんとなされ、皆が心地よく過ごせる空間となっている。季節の花を飾ったり、絵や、飾りをつけるなどし、雰囲気作りにも配慮されている。また、建物の面でも十分な広さと明るさが確保しており、快適に過ごせる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れたものや家具を持ち込んでもらい、安心して安全な生活が送れるように配慮されている。部屋の種類も畳、フローリング、畳・フローリングの3種類があり、可能な限り入居者の好みに応じて使用できるようにしている。		